

要領様式第2号

出張報告届

令和元年8月23日

吹田市議会議長様

会派名 自由民主党絆の会

出張者氏名 白石 透



印

印

印

印

印

印

下記のとおり出張したので届け出ます。

記

出張先	自動車会館（東京都千代田区）		
期間	令和元年8月21日から8月22日まで2日間		
出張の成果	別紙のとおり		
備考	第21期 自治政策講座 in 東京 活力ある社会の実現に大切な自治体議員の役割 「税金の使い方を決める—予算と決算」	認 印	会派代表者



第 21 期 自治政策講座 I N 東京 報告書

『税金の使いかたを決める ー予算と決算』

日程：2019年8月21日（水）・22日（木）

場所：自動車会館（参加者増のため、こくほ21より変更）

講師：竹下 讓氏 ・ 一條 義治氏・星野 泉氏・鏡 諭氏

まず、自治体議会政策学会会長の 竹下 讓氏から、議会の歴史、あり方などを、聞いた後、住民の意向を把握し、その予算議案が住民のためになるか否かを、議員全体で判断し議決機関となることが重要であるので、しっかりと、役立ててほしいとの挨拶があった。

三鷹市総務部調整担当部長の、一條 義治氏からは、三鷹市で積み上げてきた、大変興味深いデータをはじき出した過程の話がきけた、

その内容は、私自身の考え方と合致するものであったが、そのデータの細やかさには感心した。そのデータは例えば三鷹市の個人市民税の分析において、5項目について分析されており、現状把握、と人口構成予測における税収予測などは大変参考になる。今後、私も吹田市職員さんにデータ提供を求め、数字による予測データなども資料として活用していこうと、思う。

次に、明治大学教授の星野 泉氏の講演より、少子高齢化は世界

的傾向であるが、OECD諸国における高齢者の人口は2000年と2014年の間では、総人口の伸びより3倍以上も早く伸びている。一方、投資が進んでいない途上国では人口爆発といわれるところもある。地球規模で見れば、人口増加しているが、人口減少は、若年層中堅層の減少による労働力不足とそれに伴う税収減、そして高齢者など財政負担を多く必要とする年齢層の増加、そして国内的には地域格差という形で問題が生じている。

人口の変化をみると、平成22年と27年の国勢調査でも全国で100万人近い減少のところ、都道府県別の増加地域は、東京、福岡など8都府県で他は減少している。人口格差は拡大しつつある。

そんな中で地方消費税の清算基準の抜本的な見直しがあったり、交付税において、総務省と財務省の考え方にズレが生じたりしてきている。

我々、地方議員もそれぞれが属する自治体によって、まったく問題点が異なってくる。保育所を整備するとまた、そこに待機児童が増えてくる。電車が次々に来る都心は、3時間に1本しか電車が来ない所より、はるかに移動するには便利であるが、移動しない人には関係ない。人口減少するのだから公共施設は統合すべき、利用率の高い公共施

設だから早く、老朽化対策をやる必要がある。などすべてにおいて、予算が付けば、出来ることであるが、税収が減少しているのだから、限られた事しかできない。

吹田市の財政について、投資的経費が類似団体より高くても、それは将来のための投資だから構わない、一方、人件費が高いと財政的問題になってくる。などしっかりとチェックしていく必要を感じる。

また今後、予測できることはいち早く対応していく必要を感じる。

人口が増加しているから、税収が増えていくと、決して楽観的に考えてはいけなし、投資すべきところには、投資して市民生活の満足度を上げていかなければならない。そして、我々の次の世代に多くの負担をかけることもしてはならない。

私はよく、このテーマに関するセミナーを受けるが講師によって、考え方が全く違っていたり、税制変更によって、考え方が変わってきたりしており、今後もしっかりと吹田市に適した財政を考えていきたい。

最後に、淑徳大学教授の鏡 諭氏からは、少子高齢化・人口減少社会の行政サービスについて、高齢者目線からのその必要性について、話が進み、コストの問題ではなく、命の話であるから、高齢者の一時

的預かり施設、或いは在宅サービスよりも、ショートステイなどの必要性、また今後、特養の整備が急務であることなどの、分析を聞かせてもらった。私も思うに、なんとなく高齢化が進むだろう位にしか考えてない方が多いのではないかと危惧する。

しっかりと、データを見てもらい、吹田市の財政を市民に理解してもらい、次の世代へのバトンを渡すことが出来るよう、訴えていきたい。